

コース 24 ^{たいせつざん}大雪山（旭岳）^{あさひだけ}と^{たるまえやま}樽前山

リーダー CL T/Y

実施日 平成27年7月5日（日）～8日（水）

天候 6日快晴、7日雨後晴れ

参加者 11（男性 3 女性 9） グレード C～C上

コースポイント



ポイント	到着時間	出発時間	備考
5日 新潟港		10:30	船内二部屋指定。ミーティング（昼食）
6日 小樽港	4:30	5:15	港近くのコンビニで昼食を調達
旭岳ロープウェイ	8:30	8:45	駅を出たら正面に旭岳が見えた
姿見の池	8:55	9:05	池は残雪で水面は見えず
旭岳山頂	11:05	11:40	黄花シャクナゲ群の中で昼食
石室、愛の鐘	13:25	13:35	鐘を鳴らし、山行の無事を祈る
夫婦池	13:50	13:35	池の周りの登山道は色とりどりの高山花
旭岳ロープウェイ	14:15	14:30	バス出発。運転手の計らいで観光地に向かう
美瑛 青い池	15:30	15:55	真っ青な湖面に白い枯木林が神秘的
上富良野フラヌイ温泉	17:10	7:30	ホテルは持ち込み OK. 缶ビール、酒持参
7日 四季彩の丘	8:05	8:20	開店前で園内に入れず、外から見渡す花畑
北西の丘天望公園	8:40	8:50	360度の景色。輪厚 AP で色とりどりの昼食
支笏湖	13:35	13:55	樽前山は雲中
樽前山七合目登山口	14:25	14:30	ガスも晴れ天候回復の兆し
外輪山	15:10	15:20	空も晴れ渡り、溶岩ドームが見えた
樽前神社奥宮	15:35	15:40	神社に快晴登山を感謝
七合目登山口	16:25	16:35	北海道二座登山 全員無事下山
苫小牧東港	17:55	19:30	新日本海フェリー新潟行き乗船
8日 新潟西港	15:30	15:45	タクシー、ジャンボに分乗して帰宅

山行等概要（幹事のコメント）

- 一年前に北海道の山行計画の声に迷いました、その声は“行った事が無いから”でした。毎年7月に現地二泊の北海道登山に来ています。リーダーとなると二の足を踏みます。船、バス、山小屋、コースの立案、雲をつかむような気持ちでした。残雪に輝く山々、色とりどりに咲き乱れる花園、バスの車窓から見る北海道、なんとか見せてあげたい一心でした。
- 梅雨の無い北海道、好天に恵まれた山行スタートです、小樽港から暑寒観光バスで旭岳ロープウェイ到着、メンバーの八割は北海道登山未経験者ですので、目的の旭岳、樽前山、二座ともピストン登山といたしました。



旭岳山頂 2,290m

- 18時間船旅、毛布一枚に枕一つ雑魚寝、不眠の方もおりました、ロープウェイの姿見駅に降りた目の前、真っ青な空に映える旭岳の雄大な景観がありました、この景色を見たら長い船旅の疲れ、不眠の眠気もメンバーも元気が出たようです。
- 駅前の木道を過ぎるとエソツガサクラ、アオノツガサクラ、エソコサクラなど我がパーティーを手招きするように咲き乱れておりました。
- 姿見の池は残雪で水面は一部しか見えず、池のほとりから噴煙を上げる、旭岳は圧巻でした。
- 火山灰のザレ場、急坂の歩きにくい登山道でしたが、北海道最高峰、旭岳の雄大な景観と快晴の天気です。
- 眺望はトムラウシ、十勝連峰、北鎮岳、白雲岳等の山々に囲まれ、キバナシャクナゲの群落が開花、”花を添える”の言葉がピッタリです。
- 花の群落のど真ん中、黒岳からの縦走路を眺めながらランチタイム、気温の低下と風で雨具の着用、一時北海道の寒さを体験しました。
- 新潟で山行出発に不安こと色々ありました、旭岳を無事下山で不安事はすべて解消しました、四日間、三食寝起きすべて一緒でした。
- “登山以外は自由ですよ”突き離れたつもりでした、いつも北海道でお世話になっている、若林運転さんも一役かってくれ、名所、土産店、食堂を案内でまとめました、メンバーのみなさんありがとうございました。

「大雪山旭岳と樽前山」に参加して

(1606) K/H

北海道最高峰の山系という程度の知識しかありませんでしたが、どうしても一度は北海道の山に行きたいと参加しました。

【7/5・小樽に向かって出航】



姿見の池

船の中は18時間もあるので、何をしていたらいいかなどと思いつながらの船旅のスタートとなりました。参加者11名で一室を確保してあるということで乗船したところ、新日本海フェリー会社では二室用意してくれてあり、男女別の部屋に分かれ、男性は参加者3人だったのでゆったりと広すぎる位でした。荷物を置いてから全員で、日程の確認や登山の注意事項および朝食や昼食の手配やバス利用などミーティングしました。

小樽港に朝4時30分到着。心躍る登山開始の爽やかな晴天の朝でした。

【7/6・いざ大雪山旭岳へ】

旭岳ロープウェーで姿見駅着。火山礫の歩きづらい道でしたが、天候に恵まれた中、山頂方向を眺めながらのスタート。歩きながら高山植物を良く知っている方から、「この花は〇〇だよ」などと教えてもらいながら花楽しみました。キバナシャクナゲ、メアカンキンバイ、エゾノコザクラ、エゾイソツツジ等々でした。（もっとあったのですが……）

私にとっては2,291mの山は高く、手も冷たくなるなど寒さも感じました。下から見ていたら「山小屋」のように見えていたものが、近づくに「金庫岩」という大きな岩だったのには驚かされました。

姿見の池からちょっと周り道をしてロープウェーに向かう途中、キツネが（キタキツネでしょうか？）顔をだしました。花以外にもいろいろな動物もいるんですね。

皆さんの健脚のおかげで、時間的に余裕が出来たということで、運転手さんからビルケの森公園の「青い池」に連れて行ってもらいました。

池の水が青く、そこに明るい空と木々が映し出された池のシルエットは素晴らしかったです。宿は「フラヌイ温泉・上富良野町のホテルフロンティア」でした。



旭岳中腹にて



雪面を歩く

【7/7・樽前山にも期待】

まずもって、コマクサに会えて感動しました。しかも赤色と白色のコマクサが凜という感じで咲いていました。ラッキーというか最高の出会いでした。

樽前山登山口七合目の駐車場から登りはじめ、前が開けて見えてきたのは「白煙をあげている溶岩ドーム」でした。それを眺めながら「樽前山神社奥宮」まで散策。ここでも、「コマクサ」をはじめ「イワブクロ」「マルバシモツケ」「ジムカデ」などの高山植物を鑑賞できました。

朝は曇天でスタート。美唄パノラマロードで「ケンとメリーの木」「セブンスターの木」を車窓でながめながら、パッチワークの路で「四季彩の丘」「北西の展望台」さらには「支笏湖」まで案内してもらいました。曇り空も樽前山登山口に着くころは青空に変わっていました。

【7/8・一路新潟港へ】

山の思い出を乗せて一路新潟港へ。心配した航路時間も「山行の経験談」や「行きたい山」や「今度は何処行く？」などと和気あいあいと談笑しているうちにあっという間に過ぎました。

曇り空を青空に変えるリーダーの運の強さと、気さくで冗談も言い合えた同行の皆さんに感謝をしながら、次の会山行に思いを馳せています。

